

# NPO法人若者就職支援協会 広報第三号

## Young Employment Support Association (略称YES)

### 代表 挨拶



NPO法人若者就職支援協会  
理事長 森智洋

若者就職支援協会（略称YES）の代表の森智洋です。コロナ禍の中、不自由な日常をお過ごしのことと思います。

YESも、今回の新型コロナウイルスの影響を大きく受けております。3月に予定されていたキャリア教育の授業は学校の閉校と共に中止となりました。5月6日の総会と理事会はオンラインで無事に行われましたが、キャリア教育授業の再開は8月以降になるとの報告を東京都から受け

○発行日：令和二年六月十五日（月）  
○発行：NPO法人若者就職支援協会  
東京都足立区千住旭町36番5号  
○発行人：森智洋

ています。先行きが見えない中での、今年度の事業計画の前に、昨年度の報告をさせていただきます。都立高校のキャリア授業は31回、のべ派遣講師二四〇名で、その他のセミナーは4回、のべ派遣講師15名で実施されました。

YESは二〇一七年に事務所を渋谷から北千住に移して以来、地域との関わりを築こうと試行錯誤してまいりましたが、なかなか成果が得られず空回りしているような状態でした。それが昨年、足立区NPO活動支援センターに仲を取り持ってもらった、足立区を拠点に活動されている「ページオマ普及協会」様と交流を持つことが出来ました。昨

年度は協力して事業も行いました。今までYESが目指してきた「幅広い世代を超えた交流」が少しずつ現実になってきております。今後、この協力事業を進めていきま。関係者の皆様のご支援ご協力に改めまして感謝申し上げます。

さて今年度の事業計画ですが、前述しましたように、都立高校のキャリア教育授業は8月以降となっております。再開時の授業は感染防止対策をしっかりとした上で実施されねばなりませんので、その準備を進めております。その一環としてMC担当の中心的なボランティアメンバーにコロナリスクのある中でも活動に参加することが出来るかどうかをお聞きしました。ほとんどの方から変わらず、ご協力いただけるとお返事いただいております。本当にありがたいことです。



後からの記事でお知らせいたしますが、今年度から役員に新たに加わっていただく方もいます。先が見えない中、前へと進む勇気をいただきました。そういった多くの方々のご支援ご協力のもとYESは成り立っています。

今後ともYESを何卒宜しくお願い致します。



## 今年度役員

理事長 森 智洋  
 副理事長 鈴木 植悟  
 副理事長 島田 覚（新任）  
 理事 二井 豪  
 理事 黒沢 一樹  
 顧問 寺脇 研  
 顧問 宮原 直孝  
 顧問 大竹 恵美子（新任）  
 新任のお二人の挨拶です。

### 副理事長 島田 覚



この度、副理事長に就任しました島田覚と申します。  
 3年前に定時制高校の授業に参加以来、延べ30校以上の

キャリア教育授業に参画してまいりました。

私は社会人として約30年過ぎ、就業先は食品・運輸・生産加工・測量・電機・建設など8社の経験があります。30年前はインターネットは存在せず、社会を担うのは人の力でした。様々な情報は新聞・雑誌・人との直接的なつながりで入手されていきました。現在それらは機械化・自動化・電子化され情報はWEBサイトで入手し、人とのつながりはIT通信に代わりました。その結果、機械操作や事務で働く人や、郵便等の通信輸送に携わる人が減少し、IT技術者等の知的労働者が増加しました。

社会の変化は職業の保証や安定性を色あせてしまいました。将来を担う若年層が予測困難な社会の変化を柔軟に捉え、積極的に今後のキャリアを作れる様、これからも支援

を続けてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

### 顧問 大竹 恵美子



この度、理事会の承認を経て顧問に就任いたしました大竹恵美子です。

私がYESと出会ったのは2年半ほど前。当時の代表で創業者でもある黒沢一樹さん。人懐っこい笑顔がとても印象的では有りましたが、子ども時代から社会人になってからの経歴も含め並大抵な人間では乗り越えられない様な波乱万丈な人生を駆け抜けつつ、その壮絶な経験の全てを

ポジティブな成果に変えるカリスマでした。更にヤンチャな面と繊細な面もあり、私は叱ったり見守ったり。そんな立場をとる中で「えみこママ」と呼ばれています。

そんな彼の特性を生かす為、1年余り前に代表を森智洋さんに交代しています。森さんは数年前YESの活動に共感して寄付をした事を切っ掛けに出張授業などを手伝う様になったのですが、本業は合気道の指導で世界中を飛び回りつつ、その精神を伝えていく知徳体がシツカリと整った方です。そんな頼もしい二人が中心となって活動を盛り上げていますが、改善点がある事も認識しています。顧問として愛ある意見をし団体の使命を果たせる様に尽力いたします。皆様からも忌憚ない意見を頂ければと思います。どうぞ宜しくお願いします。



## YES出張報告

新型コロナウイルス以前の記事です。で今の世間の雰囲気とずれているかもしれないが、YESの過去の実績と未来への展望としてお読みいただければと思います。

### 初めての島へ出張授業

副理事 鈴木 慎悟



皆様こんにちは。昨年の12月に若者就職支援協会出張授業としては初の島に私、鈴木

木植悟が行ってまいりました。皆様は「神津島」という名前は聞いた事ございますでしょうか？伊豆諸島の島の1つのこの島、大ヒットとなった「天気の子」の舞台となった島です。しかしその予備知識だけでは足りないと思い、出張授業に行く前に下調べとして「神津島」を調べていたら「伊豆の島々を造った神様が集まるところ」という神秘的な事が書いてあったり「二十五日様」と呼ばれる少し怖い風習があるというのを目にした私はワクワク感と恐怖心を持ちながら島へと足を運ぶのでした。

島に行くにはフェリー、セスナという選択肢があり、行きはセスナで向かったのですが「え？セスナってこんな揺れるの？」と思うほど強風のせいで揺れを体感し、島に着く前にかなりの恐怖を覚えました……。



そんなこんなで無事に学校へ着くと授業前に時間があつたので、ありがたいうちに校内を案内して頂く事に。教室の窓の外には真っ青な海。白い砂浜。当たり前前なのですが同じ東京とは思えない大自然がそこには広がっており「これだけでも来てよかった」そう思わせる景色が一望できました。何だか島の生活が羨ましく思えてしまいました。そうこうしていると授業が

目前に。「初の島での出張授業、気合いを入れなければ」「島の生徒たちは受け入れてくれるだろうか」そんな緊張と不安の中、いざ授業が始まってみると生徒たちのおかげもあり、いつも以上にリラックス。無事、授業を終えられる事が出来ました。

その日は宿泊のため生徒たちに島のオススメスポットなどを聞き、いざ島巡り。自転車レンタルは時間外で使用できず、趣味のカメラを片手に





徒歩で探索。島料理も味わい、貴重な体験でした。帰りのフェリーで撮った写真を眺めながら「また来たい」そう思えるような初めての島での出張授業でした。

## 長崎出張について

YES 創業者・理事  
黒沢 一樹



創業者のネガポジ先生こと黒沢です。今回は、昨年度伺った長崎県でのお話しです。昨年11月までさかのぼりますが、なんとリピート依頼。3年前におこなった定時制高校の先生向け講演での内容がよかったとのことで、再度ご依

頼いただきました。ありがたいです。

長崎県内のすべての定時制高校の担当者が受ける講演というところもあり、内容をどうすればよいのか：かなり悩みました。担当の先生からは、若者支援の中でも貧困層や無気力層へのアプローチを教えてください。自分自身も体験した。自身の過去の実体験と支援経験との複合版をお出しできればとの思いで、丁寧に講演案を練り上げました。



特に伝えたかった部分としては、生徒への先生方の決めつけや話を遮ってしまう悪影響について。話を聴いてもらえなかったという思いが積み重なれば、生徒の心にはあきらめしか生まれません。そのまま、大人を信用できず、人を信用できず、未来に絶望し、無気力感に飲み込まれてしまっています。私自身も体験した話です。

では、実際のところどう対応すればよいのか？その答えとして、「傾聴スキル」と「言語化スキル」をお伝えしました。話しを丁寧に丁寧に聴く姿勢が生徒の不安を取り除いてくれます。

また、言葉になりづらい思いを言語化するお手伝いを、先生がおこなうことで生徒は自分の考えを整理することができます。カウンセラーとして勉強し実践してきたスキル群。誰でも、ちょっとだ

け勉強すれば、一気に変化があるスキルです。ぜひ、団体としてのセミナーも考えてみたいですね！

最後に：コロナという今まで経験の無い社会変化が起きてしまいましたが、自分たちができることをヒトツヒトツこれからも積み重ねていきたいと思えます。



### 編集後記

新型コロナウイルスの影響は団体に大きな影響を与えています。今後もご支援ご協力よろしくお願い致します。（森智洋記）